

「これからのテレビ」の論点

NHK放送文化研究所 主任研究員
村上 圭子

報告の流れ

(1) 作業手法と現状認識

(2) 「これからのテレビ」の論点

- ①同時配信は
配信サービスのメインストリームになるか？
- ②4K・8K 普及のシナリオは見えてきたか？

(3) 2030年に向けた問題意識

(1) 作業手法と現状認識

作業① テレビ関連最新動向の収集・取材

月日	事業者	内容	動画配信化					録画視聴化	ソーシャル化 セカンドスクリーン化	高画質化・高精細化
			マルチスクリーン化	スマートテレビ化	ハイブリッドキャスト	有料VOD・PF	無料見逃し			
		2016年2月 (2012年～)								
2月1日	広	ニールセン ツイッターとフェイスブック上のテレビ番組関連の会話を計測する「ソーシャル・コンテンツ・レイティングス」を提供開始								○
2月2日	ネ	CCC子会社カルチュア・エンタテインメント、U-NEXT等 共同で映像の企画・制作を担う新会社を設立。独自コンテンツを企画・制作する				○				
2月2日	ネ	サイバーエージェント 映像配信プラットフォーム「AmebaFRESH!」のべ視聴回数2000万回突破を発表。サービス開始から11日間で達成						○		
2月3日	メ	JEITA 主婦連 インターネットユーザー協会 4K・8K放送における「コピー禁止運用不可」の要望をNexTV-Fに提出							○	○
2月4日	放	NHK ネット同時配信実験「試験的提供B」の結果を発表。時間帯別では、平日の朝7時～8時台にモバイル端末からの利用が目立った						○		
2月4日	公	情報通信研究機構 「さっぽろ雪まつり」の映像を用いて、8Kライブ映像の超広帯域リアルタイム暗号化配信に世界で初めて成功したと発表						○		○
2月12日	公	総務省 マイナンバーを活用する民間事業者として初の大臣認定を実施。日本デジタル配信、スマテ防災の社団など3社を認定		○						
2月12日	有	とんみ衛星通信テレビ マイナンバーカードを利用し、富山県南砺市で「なんとすこやか親子支援事業」を開始すると発表		○						
2月17日	メ	JEITA「AV&IT機器世界需要動向 ～2020年までの展望～」を発行。国内テレビの4K化率が2020年には70.5%に伸びると予測								○
2月17日	公	総務省 4K・8K試験放送の業務認定について、電波監理審議会に諮問し、NHKとNexTV-Fの業務申請を認定								○
2月18日	放	Hulu 米HBOと日本国内S-VODの独占契約を結んだと発表。HBOライブラリー作品の中から常時800話以上の配信を予定				○				
2月19日	公	総務省 電波政策2020懇談会 制度ワーキンググループ（第3回）を開催。電波利用料を4K・8K推進等に、とNHK、民放連が発表								○
2月19日	放ネ	テレビ東京 LINEのライブ配信サービス「LINE LIVE」を用いて、テレビ東京で放送中の音楽番組の特別版を配信すると発表						○		
2月22日	ネ	ゲオと、エイバックス・デジタル 新映像配信サービス「ゲオチャンネル」を開始。アダルト対応。店頭でのレンタルも利用可能なプランも提供する				○				
2月22日	放	日本テレビ 初の8K番組となる「笑点」を制作したと発表。日本テレビ技術展「デジテク2016」にて上映する								○
2月22日	公放	総務省 近畿広域圏におけるV-Lowマルチメディア放送の開始を発表。全国で初めてのV-Lowマルチメディア放送。3月1日放送開始予定								
2月23日	ネ	GYAO 月額見放題プラン「プレミアムGYAO!」の提供を開始。月額800円。映画やドラマの他、「GYAO!」の無料映像をCMなしで視聴可能				○				
2月24日	有	スカパーJSAT 「スカパー! オンデマンド」で提供中の「Jリーグオンデマンド」のアップデートを実施。ボールの支配率等をビジュアル化	○					○		
2月24日	放	Hulu 「ナショナル ジオグラフィック チャンネル」のリアルタイム配信を発表。3月1日配信開始				○		○		
2月24日	公	デジタル放送推進協会(Dpa)と次世代放送推進フォーラム(NexTV-F) 4月1日に合併すると発表。DpaがNexTV-Fの権利義務を承継する								○
2月25日	ネ	Netflix 日本発の独自新作アニメを独占配信し、世界190カ国・地域で同時配信すると発表				○				
2月26日	放	HAROID ネット接続テレビでリモコンなどで番組連動企画に参加するとポイントがもらえるサービス「CHARIN」を発表。局横断のサービスを目指す		○						○

目的：事業者、業界、政策の最新動向を継続把握して俯瞰図を作る

作業② 新サービスの分類

サービス種別		内容
アクセスサービス (マルチスクリーン)		全録や自宅のテレビとのペアリングによって、または有料多CHサービス事業者の会員向けに、“いつでもどこでも”番組等の映像コンテンツを視聴できるサービス
動画配信	同時配信	番組のオンエアと同じタイミングで、放送局がネット配信するサービス
	時差再生	番組のオンエア中に、開始時までさかのぼって番組を再生するサービス
	無料見逃し	番組オンエア後、1週間程度無料配信するサービス（民放はAD-VOD）
	有料VOD 有料VOD-PF	放送局などが、自社サイトで自社のコンテンツを有料配信するサービス 幅広いコンテンツを横断的に集積させたプラットフォームサービス
	ライブ配信等	ネットオリジナルコンテンツをリアルタイム配信するサービス
スマートテレビ化 (ハイブリッドキャスト)		テレビ端末をネットにつないで、テレビを番組視聴だけでなく、“端末”としてより幅広く利用するサービス。（STBやドングル利用含む） テレビ端末をネットにつないで、番組連動や放送局のサービスの充実など、“放送”をより楽しむことを主目的とするサービス
録画視聴化		全録やHDDなどで番組を録画して視聴する動きと、それを促進させるサービス
高画質化・高精細化		テレビの高画質化や高精細化全般に関する動き
セカンドスクリーン化 ソーシャル化		番組と連動させたモバイル端末に向けた各種サービスや、放送局や番組を中心としたコミュニケーションの場を構築していく動き

変化激しく分類はすぐ陳腐化。しかし、長期的視野でユーザーニーズと事業者の役割との接点にあるサービスを見出すためには不可欠な作業

2015年はVODサービスの年

主なVODサービス

新サービス リニューアル 終了予定

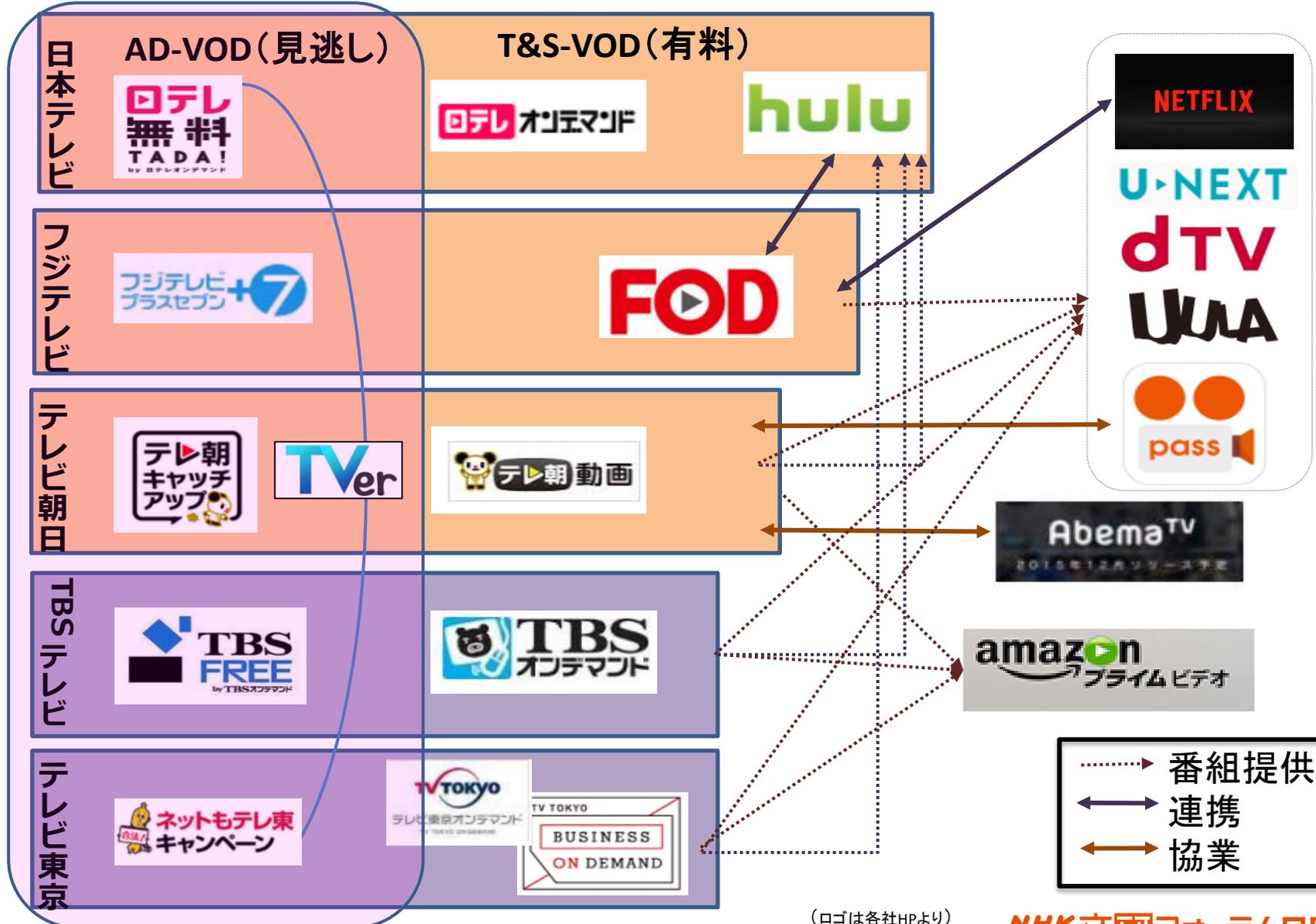
地上波放送事業者（※スペース都合上在京キー局のみ）		有料多チャンネル事業者		通信キャリア	
TBSオンデマンド	AD・T・S	J:COMオンデマンド	会	dTV	S・T
日テレオンデマンド	AD・T・S	milplus	会・S・T	dアニメストア	S
FOD(フジテレビオンデマンド)	AD・T・S	iTSCOMオンデマンド	会	ビデオパス	会S・T
テレ朝動画	AD・T・S	TOKAIオンデマンド	会	アニメパス(16.4終了)	会S
テレビ東京オンデマンド	AD・T	ひかりTVテレビオンデマンド	会・S・T	UULA	会S
ビジネスオンデマンド	S	スカパー！オンデマンド	会・S・T	アニメ放題	会S
NHKオンデマンド	T・S	WOWOWメンバーズオンデマンド	会		
テレビドガッチ(16.3終了)	AD・T・S	J SPORTSオンデマンド	会		
TVer	AD				
OTTその他の事業者					
<動画配信系>		<ECサイト系>		<メーカー系>	
Hulu	S	楽天SHOWTIME	T・S・E	acTVila	T・S
Netflix	S	Amazonビデオ	T・E	PlayStation Store	T
U-NEXT	S・T	プライム・ビデオ	(S)	XBOX Video	T
<レンタル・セル系>		<コンテンツ制作系>		<ポータルサイト系>	
TSUTAYA TV	T・S・E	BANDAI CHANNEL	T・S	GYAO!	AD
DMM.com	T・S	YNN	T・S	GYAO!ストア	T
ゲオチャンネル	T・S	東映アニメオンデマンド	T・S	プレミアムGYAO!	S
		東映特撮ファンクラブ	S	Google Play	T・E
<動画共有系>				iTunes store	T・E
ニコニコ動画	AD・S	bonobo	T・E		
YouTube	AD				

AD:広告付き見逃し無料 T:都度課金 S:定額制 E:購入

民放キー局のVOD戦略も新段階

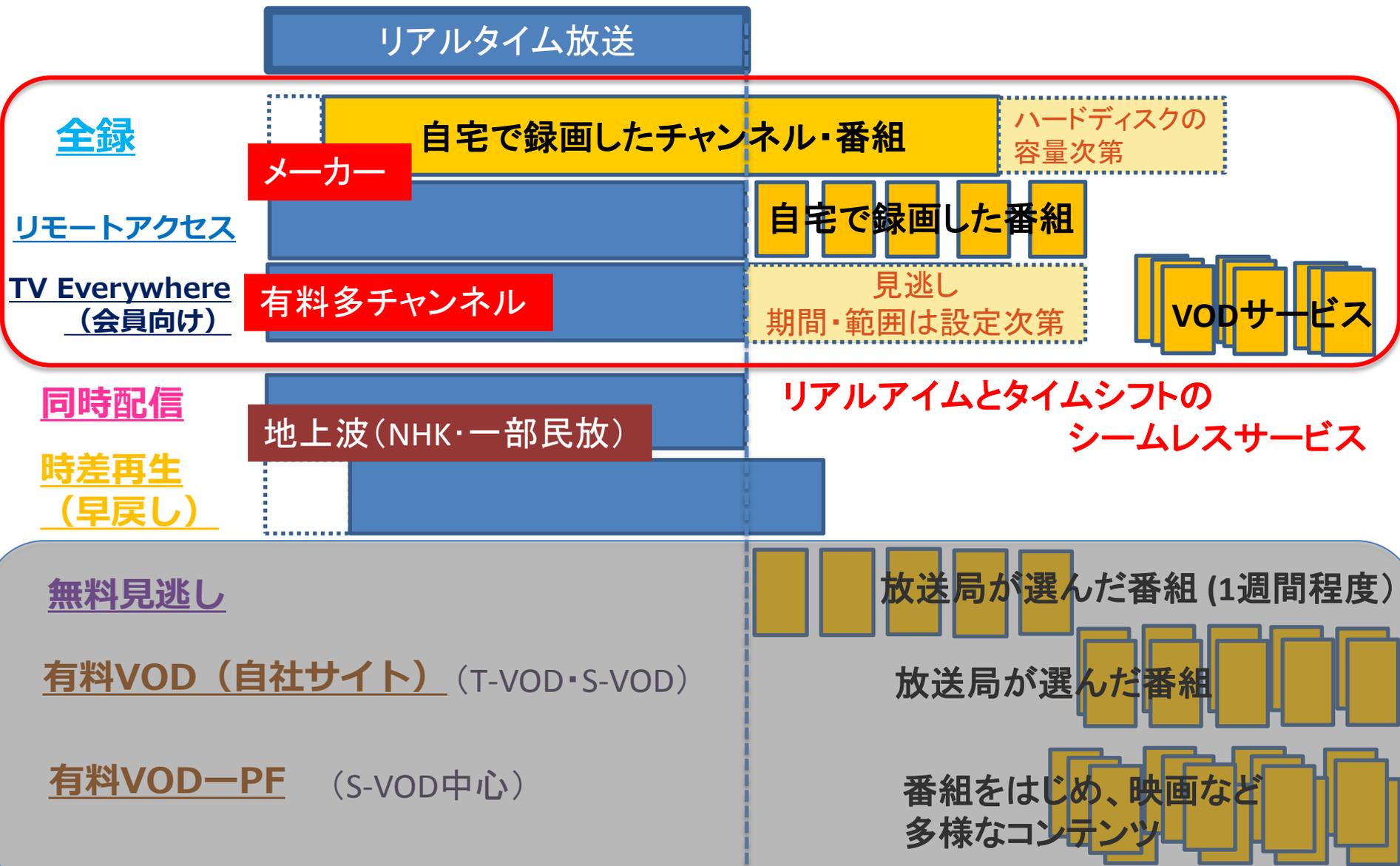
プラットフォーム志向型

B to B 型



(ロゴは各社HPより)

メーカー・有料多CHはサービスを高度化



2016年はライブ配信・同時配信へ？

主なリアルタイム配信系サービス

ライブ配信PF

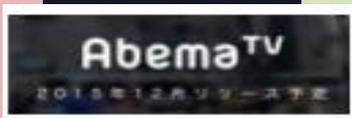
ユーザー系



アーティスト等融合系

2015年
12月～

LIVE



2016年3月～

放送局オリジナル ライブチャンネル



- * 配信者は多様(ユーザーもアーティストも放送局も)
- * サービス事業者 PF化の動きはこれから
- * サービス形態の多様化
(ライブ+VOD、放送+オリジナルコンテンツ等)
- * チャンネル同時配信は実験段階(有料系除く)

放送同時配信

番組・ニュース系



朝日新聞デジタル高校野球



災害時等同時提供
試験的提供A

有料系



2016年3月～

チャンネル系

FOX

NATIONAL
GEOGRAPHIC
CHANNEL

2016年3月～
(Hulu内)



PC・スマホでテレビが見られる

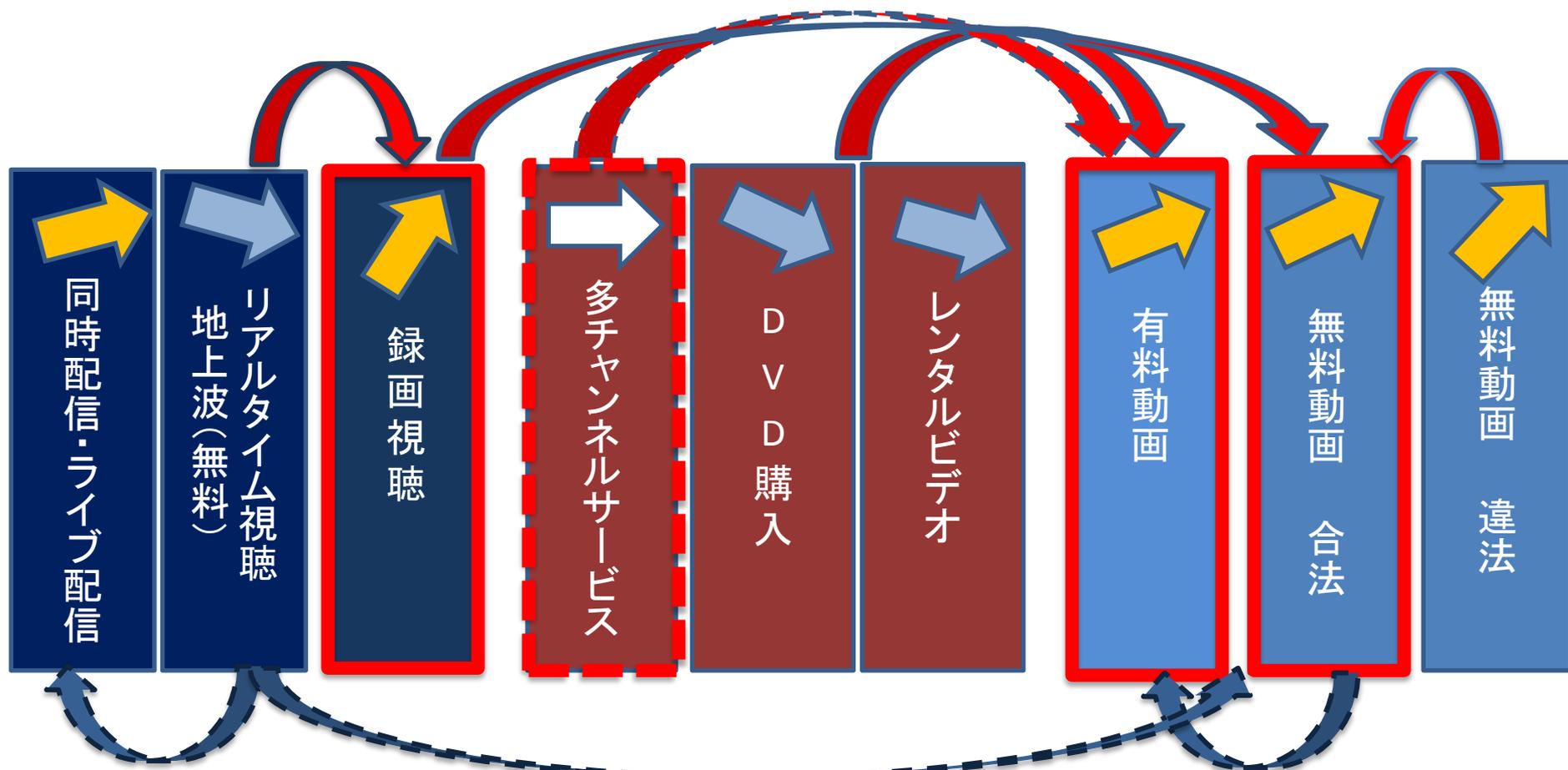
エムキャスト



試験的提供B

(ロゴは各社HPより)

ユーザー動向はどうなる？



多様化、分散化するニーズに対し、サービスの高度化・統合化をどう図るか
既存の体制や運営モデルは、効果的に活用できなければ足枷になることも

(2) 「これからのテレビ」の論点

- ① 同時配信は
配信サービスのメインストリームになるか？

チャンネル同時配信サービスの先駆例

2014年3月～



- * **課金モデル** (有料放送の同時配信。価格帯も同じ)
- * 「F1」などがキラーコンテンツ
- * 現在は**9割以上**を放送と同じ内容で配信
- * 番組によって**見逃しサービス**あり

7th TV ONE smart
7th TV TWO smart

2016年3月15日
配信スタート!



- * 当初から配信の予定はあり
オリジナルコンテンツが
「NEXT smart」より少なく権利者と調整

2015年7月～



- * リクルートとの協業での実証実験(1年間)
- * **無料モデル** (広告トライアルあり)
- * TOKYO MX1とTOKYO MX2の
2チャンネル**25%弱**を配信中
- * 地上波放送での範囲は1500万世帯弱
→ねらいは**全国配信**によるリーチ拡大
- * 番組販売を行っているエリアに対してなど、**都道府県単位で配信を制御**

都道府県単位で配信を制御



権利上配信が難しい
地域について、
都道府県単位で
制御することも可能です。

(出典: TOKYO MX講演資料より)

現時点で民放では、有料放送、独立局の取り組みに留まる

(ロゴは各社HPより)

NHK 「試験的提供B」 検証結果

2015年10月19日～11月15日 総合テレビ 1日16時間以内で放送と同時にネット配信

<p>実験参加者</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調査会社を通じて募集した「一般視聴者」957人 「ネットクラブ実験参加者」8,941人 <p>計9,898人</p>
<p>検証項目と結果</p>	<p>①同時配信に対する視聴ニーズに関する基礎的な検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「一般視聴者」のうち8.9%が同時配信を利用 「ネットクラブ参加者」のうち66.4%が同時配信を利用 平日の朝7時台、8時台にモバイル端末の利用が目立った → 朝の通勤時間帯の移動中に視聴されたのではないか。 「ネットクラブ参加者」の50代以下ではモバイル端末による視聴がパソコンによる視聴を上回った → モバイル端末をよく利用していたり、日中、外出が多い年代の方が移動中に利用されたのではないか。 「ネットクラブ参加者」のアンケートでは、57.4%が満足、94%が今後も利用したい意向
	<p>②配信基盤と関連システムとの連携の負荷や各種端末への対応状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 放送と比較して25秒程度の遅延。 → 一般的なライブ動画配信と比べても大きな差はなし システムに係わるトラブルは発生しなかった
	<p>③インターネット配信のための権利処理に関する課題と対応策の運用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 権利処理によって配信できた時間は、合計345時間57分。配信対象の時間の78% ニュースは94%、その他の番組は71%を配信 配信未実施の理由の4分の1は、番組やニュース項目に、契約上インターネット配信権なし その他、制作から長い年数が経過し、権利者への確認できず
<p>今後の予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 28年度も、同時配信の検証実験を継続する 今回明らかになった権利確保等、様々な課題についても引き続き検討を進める

(出典：NHK広報発表資料より)

同時配信ニーズどこまで？

NHK「試験的提供B」 検証結果

*「一般視聴者」の利用(期間は2週間)8.9%・・・これをどうとらえるか

*「ネット同時配信サービスに今後期待すること」(「ネットクラブ実験参加者」アンケート)

・NHK総合以外のNHKの番組も見られるようにすること

・見ることができない番組をなくすこと

・すでに放送された番組を見られること

・民放の番組も見られるようにすること

・深夜や早朝にも同時配信サービスを利用できること

・配信中の番組を好きなところまで戻って見られること

・音が出せない場所でも、字幕で分かるようにすること

・通信費がかからない設定を選べること

・配信中の番組を最初に戻って見られること

・画像や音声の質を高めること

・同時配信サービスのアプリを使いやすくすること

・同時配信サービスのウェブサイトを使いやすくすること

・対応する端末の種類を増やすこと

・その他(具体的にお書きください)

・とくにない、わからない

77.6%

62.3%

56.6%

45.3%

40.8%

36.8%

35.3%

32.7%

32.3%

18.3%

16.0%

10.2%

9.4%

10.2%

0.7%

(出典: NHK広報発表資料より)

有効回答数=4301件

ユーザーにとっては・・・

①放送と出来る限り同じ内容

②同時配信+見逃し配信

(リアルタイムとVODのシームレス化)

③NHK総合以外や民放の番組

①権利上の課題

②見逃し: NHKはNODで有料提供

(※民放キー局は無料広告モデル模索中)

③多くの地上波民放は現時点では
マネタイズが見えず消極的

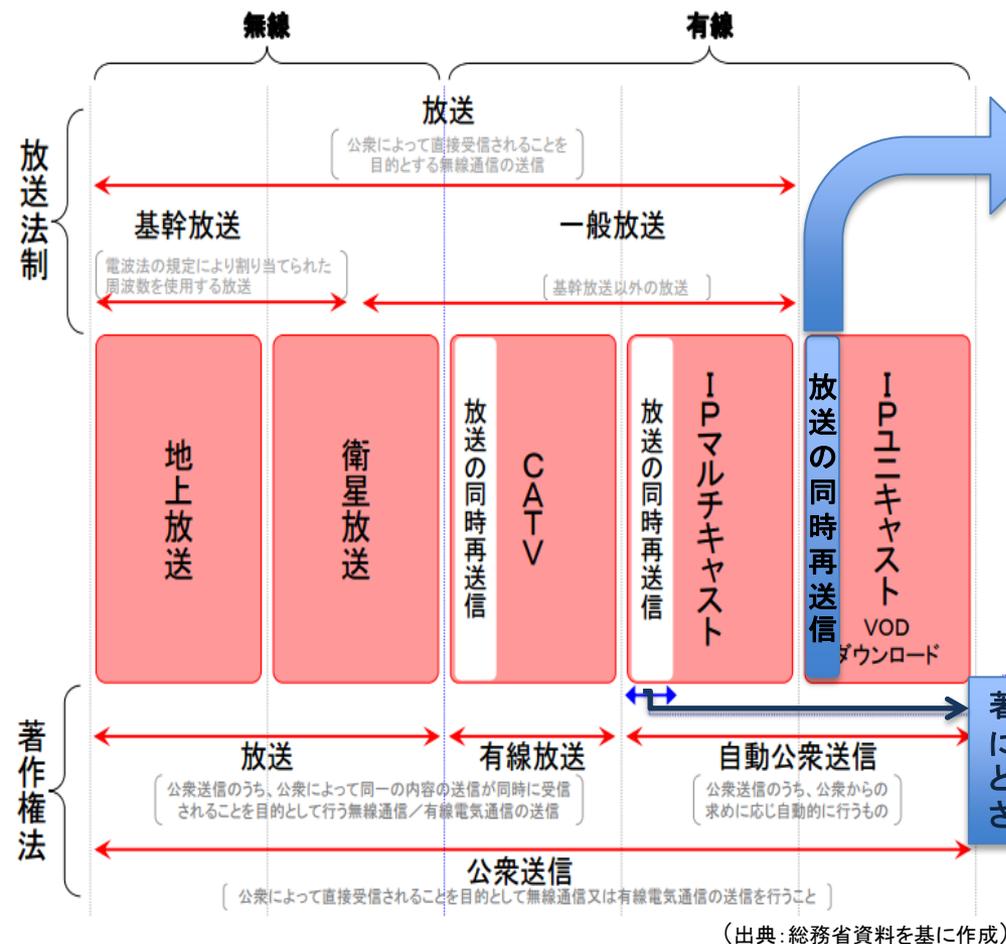
総務省「放送を巡る諸課題に関する検討会」(去年11月～開催中)

「これからは5Gの時代。iPhoneをテレビに」

「デバイスを意識しないシームレスな視聴が可能な制度設計、環境対応を促進し、競争力を維持」

本格的なネット配信時代に向かう中、番組表(時間編成)に紐づく形で
番組の提供を考えることは、放送事業者の重要な役割では？

同時配信に関する権利上の課題



	放送		ネット配信	
	許諾権	報酬請求権	許諾権	報酬請求権
著作者	○		○	
実演家	×	○	○	
レコード会社	×	○	○	

→放送とネット配信では実演家等の権利が異なるため、ネット配信するには改めて許諾をとる必要がある

NHK:文化審議会著作権分科会WGに対して意見書提出

「海外において放送番組のネットによる同時配信は、放送と同じ扱い(放送に含まれる)をしている国が多い中、日本でも、著作権法における放送の定義を見直し、放送と同時のインターネット配信について「放送」とみなす規定を盛り込んだ著作権法の改正を強く要望したい。」

「新たな時代のニーズに的確に対応した制度等の整備に関するワーキングチーム」(第1回)(去年10月)

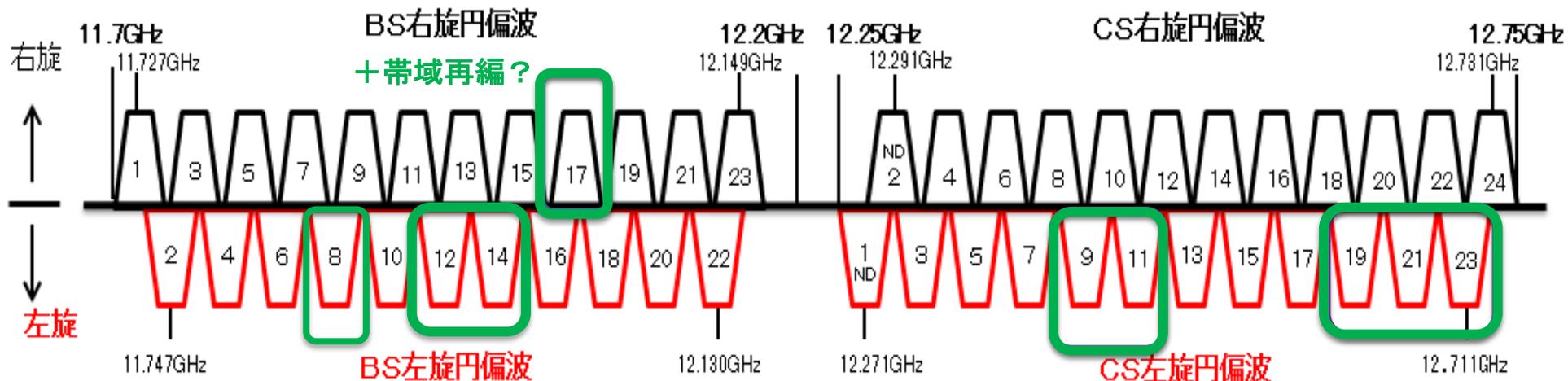
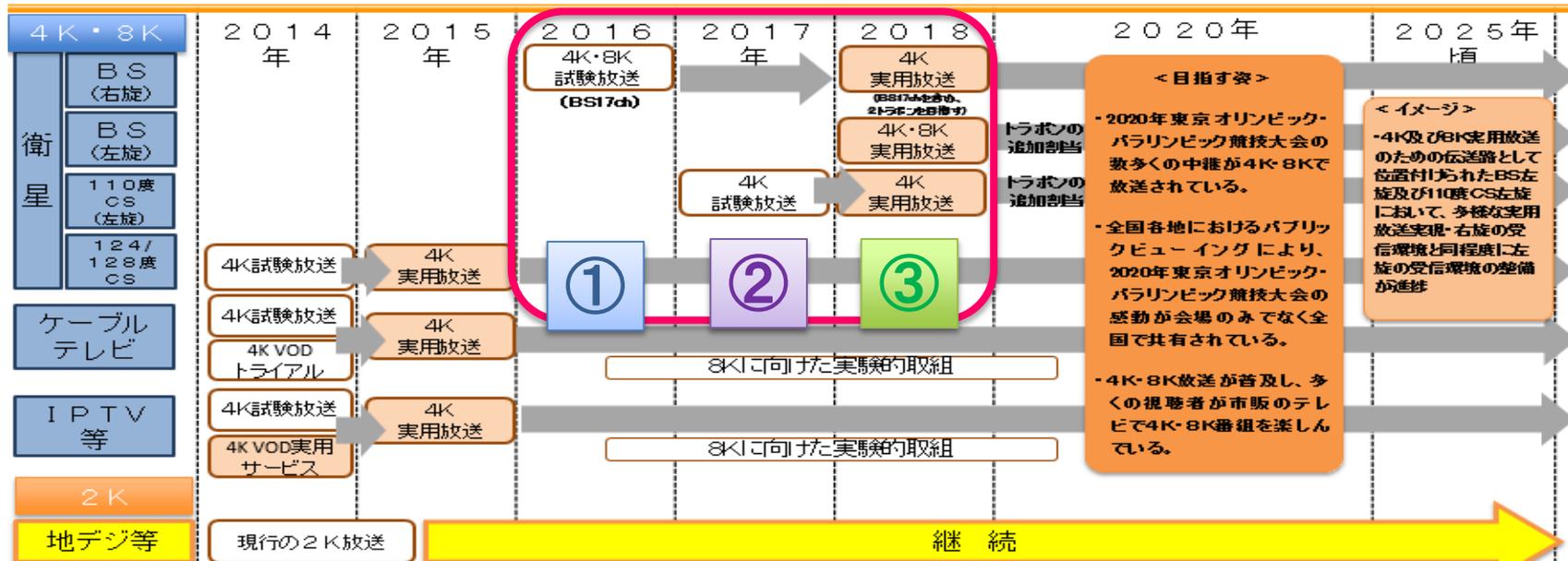
オール放送事業者で権利者団体等と向き合うのは時期尚早？
この課題に対する権利者、ユーザー、行政の認識は？

(2) 「これからのテレビ」の論点

②4K・8K 普及のシナリオは見えてきたか？

2016年は衛星基幹放送にとって要の年

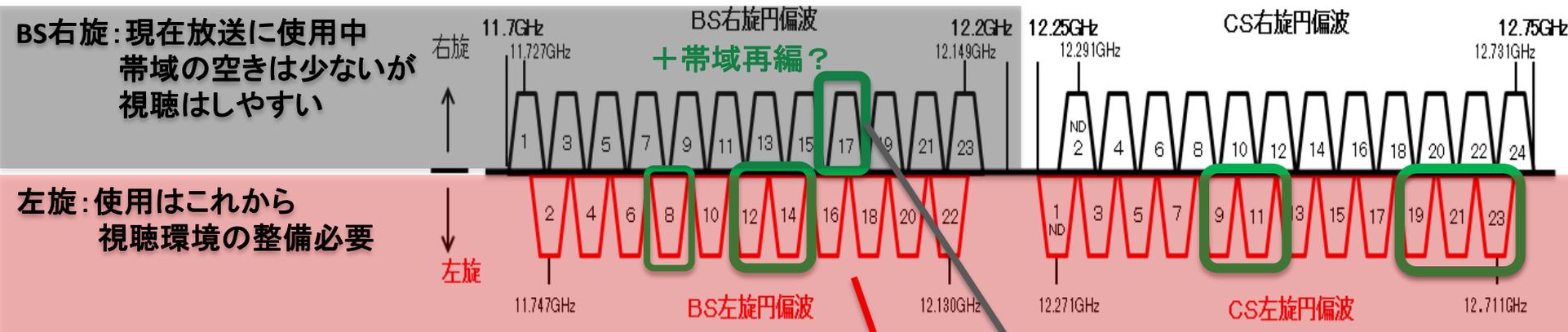
4K・8K推進のためのロードマップ～第二次中間報告(2015年7月)



(出典: 総務省の4K・8K推進のためのロードマップのフォローアップ会合等の資料を基に作成)

※基幹放送用周波数使用計画で選定された当初チャンネルを表記

実用放送の参入希望は～今年秋



「実用放送に関する基幹放送普及計画(改正案)」
(昨日パブコメ締切)

4K・8K放送のチャンネル数の目標

	NHK	民間事業者
BS右旋	4K放送 1チャンネル	4K放送 2チャンネル (帯域再編が出来る場合には、5チャンネル)
BS左旋	8K放送 1チャンネル (4K放送 2～3チャンネル)	4K放送 6チャンネル
110度CS左旋		4K放送 10チャンネル

→主要伝送路を“左旋”と位置づけ

BS右旋 OR “幅寄せ”

4K	4K	4K
----	----	----

NHK1CH 民間2CH

NHK1CH 民間5CH

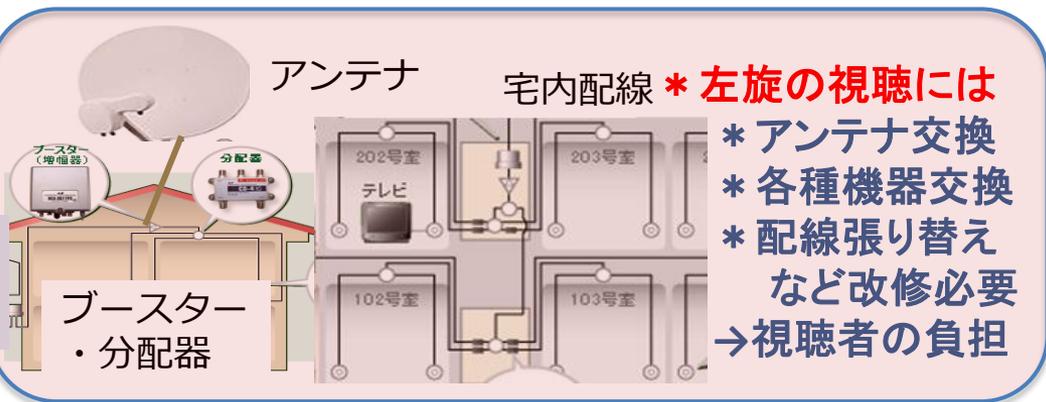
※現在放送で使用している帯域を幅寄せする場合の影響の検証必要

BS左旋 NHK1CH(8K)

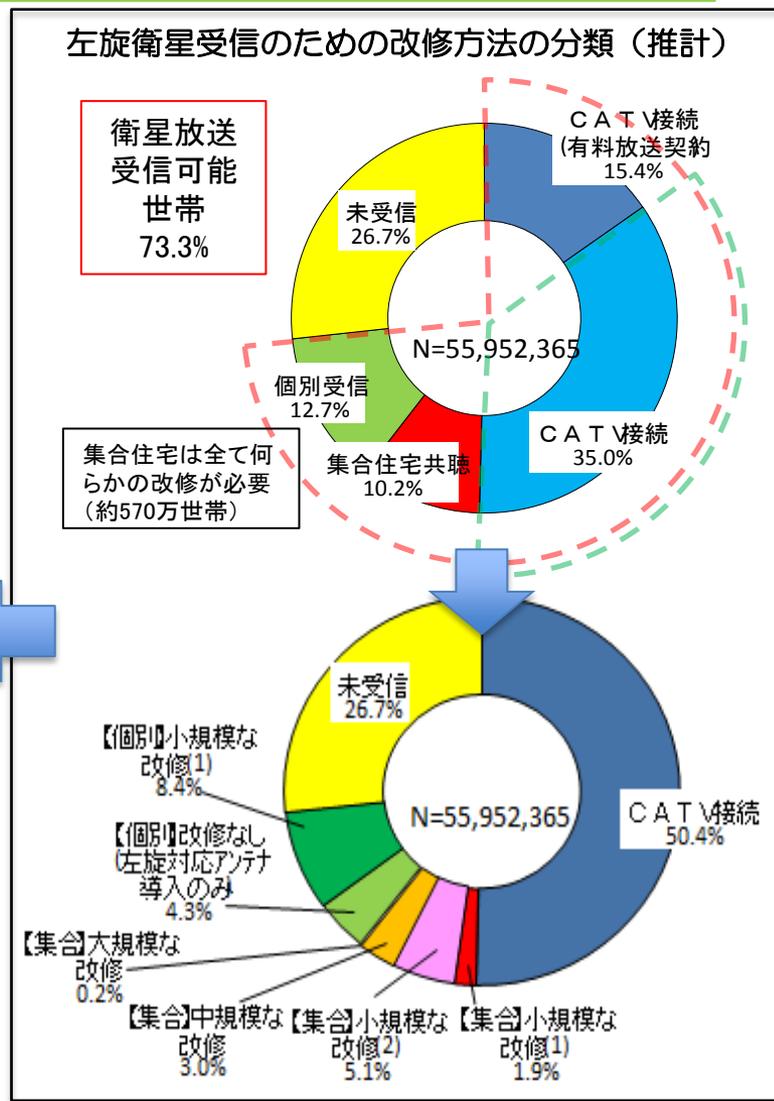
右旋の幅寄せの影響は？右旋ですらビジネスモデルが見えないとの声がある中、左旋の参入事業者は確保可能か？

(出典:総務省資料を基に作成)

主要伝送路 “左旋” の課題



(出典：(株)NHKアイテック「集合住宅における東経110度CSデジタル放送又はBSデジタル放送に関する左旋円偏波の受信可能性に関する調査」調査結果報告をもとに作成)



CATV視聴前提？改修やアンテナ買い替えの視聴者負担への対策は？

地上波は4K・8Kにどう関わる？

ユーザーデバイス



VOD・有料・IPTV・CATV・衛星



制作機器



4K化の流れは必然。コンテンツ制作も4Kへ。しかし地上波での伝送は当面予定なし。番組制作に意欲ある局は左旋チャンネルへの参入も？

4Kネット配信



ライブ・パブリックビューイング



4Kは放送波よりもネット配信？コンテンツビジネス？ライブ・パブリックビューイングで新たなビジネスモデルを開拓？

同じ問いに向き合い続ける地上波局。4K・8K時代をどう生きる？
地上放送における“放送高度化”施策のビジョンは？

(3) 2030年に向けた問題意識

激変の中の放送事業者の立ち位置

メディア環境の変化

- * モバイル→5G
- * IOT&データ活用加速化
- * 4Kネット接続TV増
- * BS・CS左旋

視聴者（ユーザー）の変化

- * テレビ長時間視聴者（高齢者）減少
- * 10代→中核世代へ
- * 据え置きTV離れ

サービスの变化

- * 映像&非映像、放送&非放送、プロ&アマ、ライブ&VOD
- コンテンツシームレス化

事業者の変化

- * 新規参入
- * 多角経営
- * グローバル化
- 巨大PFの垂直統合&合従連衡加速化

<地上波民放>

マス排緩和

- * 既存の産業構造の改革
- * 新規ビジネス開拓やモデル再構築

<NHK>

ネット業務拡大

- * “公共メディア”の具現化
- * 受信料のあり方の検討

放送法改正（26年）

放送通信融合時代において放送事業者が提供する“公共的価値”とは？

社会の変化

- * 経済ゼロ成長
- * 少子高齢化加速
- * 地域間・階層格差拡大
- * 災害多発

言論環境の変化

- * ジャーナリズムの相対化
- * 公共空間の重要性高まる

ご清聴 ありがとうございました



月刊誌「放送研究と調査」
「これからのテレビを巡る動向を整理する」
不定期連載中
(2016年2月号 Vol.7)

<http://www.nhk.or.jp/bunken/index.html>